

特集「パズルの数理 (Mathematics of Puzzles)」の 編集にあたって

伊藤 大雄^{1,a)}

娯楽は人間の重要な営みであり、古来から人々の興味を集めて来た。娯楽を対象とした研究は古典的なテーマであり、それは比較的新しい研究分野である情報・数理においても例外ではない。さらに、近年のコンピュータやインターネットの日常化および、計算機科学、組合せゲーム理論などの発展にともなって、ゲーム・パズル研究は一段と飛躍し、研究者の注目を浴びている。本特集号の編集委員長の伊藤は、「組合せゲーム・パズルミニプロジェクト」を2005年に立ち上げ、毎年研究集会を実施しているが、発表件数、参加者数は年々増加しており、この分野の活気が増して来ていることを実感している。本特集号「パズルの数理 (Mathematics of Puzzles)」は、その潮流をうけて企画された。

編集委員にはこの分野で国際的に顕著な業績をあげている研究者に加え、情報処理学会の編集委員会の中から本分野に近い方々にも加わっていただき、編集委員長の方を補って余ある強力な陣容となった。

投稿された論文数は21本であり、そこから厳格な査読手続きをうけて採録された論文数は17本、採録率は約81%である。採録論文の内訳は和文が6本で英文が11本であり、責任著者の国籍で分類すると、和文はすべて日本だが、英文の方は日本5、デンマーク3、ドイツ、オランダ、ニュージーランド各1である。

内容は、ゲーム・パズルの計算複雑さが最も多いが、その他に、必勝手順、パズルの解析、新基準の提案、問題例の構築法など多岐にわたっている。本特集号が組合せゲーム・パズルの研究分野の発展の一助になれば幸いである。

本特集号の発行までには多くの方の助けをいただいた。まず幹事と編集委員各位、ご多忙な中、査読に協力して下さい、適切な御意見を賜った査読者の方々、事務面で様々なサポートして下さった学会事務局の皆様、そして何よりも、本特集号に論文を投稿して下さった、すべての著者にここで深く感謝の意を表したい。

なお、第2回の特集が、2013年5月号を目処に企画さ

れ、7月末日締切で論文募集が開始されている。さらに高水準の論文が多数投稿されることを楽しみにしている。

「パズルの数理」特集号編集委員会

- 編集長
伊藤大雄 (電気通信大学)
- 幹事
定兼邦彦 (国立情報学研究所)
- 編集委員 (五十音順)
上原隆平 (北陸先端科学技術大学院大学)
岡本吉央 (電気通信大学)
渋谷哲朗 (東京大学)
野々部宏司 (法政大学)
Stefan Langerman (Université Libre de Bruxelles)

¹ 電気通信大学大学院情報理工学研究科
School of Informatics and Engineering, The University of
Electro-Communications, Tokyo 182-8585, Japan

a) itohiro@uec.ac.jp